



山村振興のキーポイント

自立するといった気構えを大切に！

【栄村から学ぶ】



知恵の経験の継承

昔ながらの 自前対策の知恵を継承

昔から、田直しなどは各農家で地形や水系に即して、経験に基づく修繕を個々に取り組んでいた。したがって、必ずしも業者に依頼し紋切り型の設計と重機を用いるような高価な事業を行うのではなく、農家が行う修繕自体に支援する方式をとることで、余計なコストをかけず、合理的な田直しを行うことも大切である。

村人が大きな資源

自立するという気構えが第一だ

多くの山村地域に見られるように、栄村においても風土や人情によって最適な村の運営システムが歴史的に形成され、その受け継がれてきた最適なシステムを現実の条件でいかに機能させるかということを考えてきた。例えば、お産は村にいる助産婦さん、棚田の補修や道普請、雪下ろしなども村に大勢いるはずの名人に頼むといったように、村の人という資源を活用して、自立してやっていこうという気構えが大切である。

財政負担の軽減策

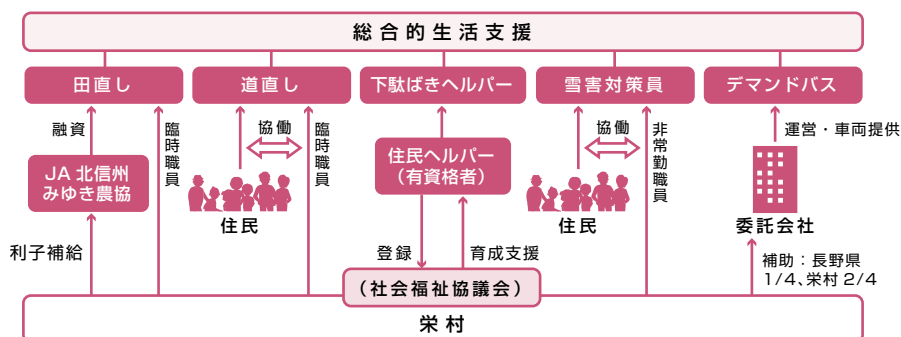
財政負担を少なくする 工事のあり方を見極める

同じような公共整備を行う場合、適用する補助事業によってかかる費用に差が生じる。補助事業ありきで考えるのではなく、より地域にマッチする事業を選択したり、直営（村単独）でやる方が安価でかつ、地域の実情にあった整備ができる場合もあり、その見極めが大切である。



活用した組織と制度

基本は受益者負担・受益者作業で



今ある資源で「やりくり」はできる



栄村 前村長 高橋彦芳 氏

栄村は豪雪地帯で人口密度も低く、住民が必要とする公共事業を農閑期に住民自身が実施しないと生活ができなくなってしまうため、昔から共同作業を行っていました。公共工事は受益者負担、受益者作業の名目のもとで行われ、私どもはそのような考えのもとで田直しや道直しをやってきましたが、ハードの公共事業ばかりではなく、ソフトな産業経済活動、福祉活動、文化活動の面でも、住民ネットの実践活動で地域の自立を目指してきました。それぞれの地域にはそれぞれが培ってきた物差しがあり、それを皆で支えていくしか地域の自立はないと思っています。

いってみれば住民のもっている知恵と技、これを取り戻し、応援し、育てていくことが村政の果たす役割でなければならないと思っています。

今ある村の資源で村運営のやりくりは可能で

す。その際、農業にあっての共同作業化、住民と村が協働して軽費かつ速やかに行う道直しなどにおいて、集落で支え合い、脱落者を出さないことが肝要です。また「住民自治」のために村の人々が復権する、自信を持つ、その方法として都市部との交流が大事だと思っています。



今後の課題・展望

村の資源と外部との交流で地域活性化を進める

自立的な生活支援策から展開し、村の発展に寄与する基幹となる産業（農業）の強化や他都市の、特に若者との交流機会の拡大を図り、人と人、都

市との交流で農村等に手助け・生活ができるような仕組みを考える。

目標 1

村の資源をもっと見直す

栄村振興公社ではこれまで観光中心に向いてきたが、これからは観光より農村にたちかえり、村の特産開発などを図る。

目標 2

外部交流の推進

村民が集まり村づくりなどを語り合う山里自由大学を開催しており、今後も勉強会開催などを継続して、他都市と村の交流、若者の来村などを仕掛けていく。

関連・関係する団体

JA北信州みゆき農業協同組合 〒389-2253 長野県飯山市大字飯山3567 Tel : 0269-62-0055 Fax : 0269-62-0645